



東北商店株式会社
www.tohokushoten.com

被覆線・雑品
非鉄金属買収

貿易業

東北商店株式会社
□本社
大阪市住之江区新北島5-3-16
TEL:06-6683-8828
□南港事業所
TEL:06-6613-8838
□千葉支店
TEL:0436-76-7277
□名古屋支店
TEL:0567-94-5688

グループ会社

東北エント株式会社
兵庫県姫路市網干区浜田1585
TEL:079-271-5025
www.tohoku-ent.com

日刊メタルレポート

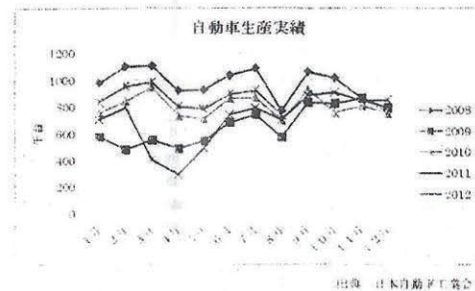
◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比・前年比の推移が以下の通りです。

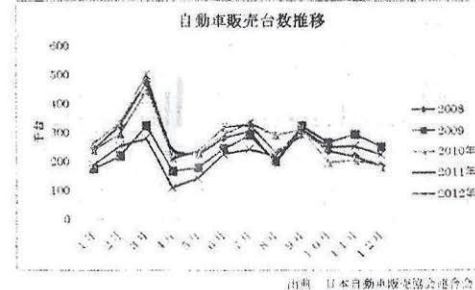
	6月	7月	8月
生産台数	89万3149台	92万2679台	73万5999台
前月比	+14.3%	+3.3%	-20.2%
前年対比	+20.3%	+16.7%	+4.5%

	7月	8月	9月
販売台数	32万8543台	23万2372台	28万8478台
前月比	+4.6%	-29.2%	+24.1%
前年対比	+36.1%	+7.3%	-8.1%

自動車生産台数



自動車販売台数推移



出典 日本自動車販売協会連合会

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比二四・一%増の二八万八、四七八台(前年比八・一%減)。二面へ続く

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比二〇・二%減の七三万五、九九九台であった。

◆自動車販売台数

前月の経済指標

スタットとなった。

日現在、前半締めから、七〇ドル下落の八、二三〇ドル、銅建値六八万円の

ラデルフィア連銀総裁がQE3の経済成長と雇用への効果については懐疑的

との発言や、独IFO景況感指数が予想外に悪化したことを嫌気し、十月一

日現在、前半締めから、七〇ドル下落の八、二三〇ドル、銅建値六八万円の

スタットとなった。

後半は中国国慶節前の実需筋の積み増しなどプラス材料もあったが、フィ

ンランドの失業率が高水準で推移していること、米FRBの政策が、米FRB

によるQE3(追加的金融緩和)が決定したことを好感。LME銅は八、四

〇〇ドル(セツル)と約八〇〇ドル急騰しての前半締めとなった。

後半は中国国慶節前の実需筋の積み増しなどプラス材料もあったが、フィ

ンランドの失業率が高水準で推移していること、米FRBの政策が、米FRB

によるQE3(追加的金融緩和)が決定したことを好感。LME銅は八、四

〇〇ドル(セツル)と約八〇〇ドル急騰しての前半締めとなった。

後半は中国国慶節前の実需筋の積み増しなどプラス材料もあったが、フィ

ンランドの失業率が高水準で推移していること、米FRBの政策が、米FRB

によるQE3(追加的金融緩和)が決定したことを好感。LME銅は八、四

〇〇ドル(セツル)と約八〇〇ドル急騰しての前半締めとなった。

後半は中国国慶節前の実需筋の積み増しなどプラス材料もあったが、フィ

ンランドの失業率が高水準で推移していること、米FRBの政策が、米FRB

によるQE3(追加的金融緩和)が決定したことを好感。LME銅は八、四

〇〇ドル(セツル)と約八〇〇ドル急騰しての前半締めとなった。

新設住宅着工戸数、伸び悩む

自動車の動向にもついに陰り

橋本健一郎氏リポート①

発行所

株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話(06)6932-5443 代表

北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話(076)444-6836

購読料 半年44,100円(前納)3ヵ月22,050円

輸出はスクラップが一八%減少

輸入は電気銅、スクラップとも増

(二面より続く)

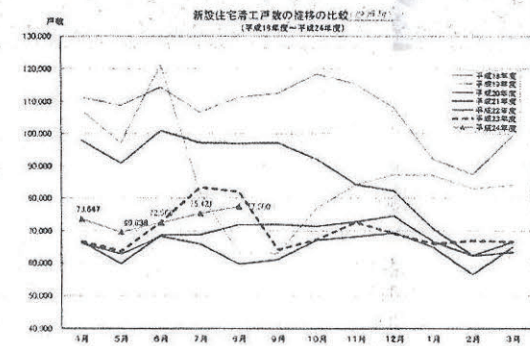
【前月の経済指標】

◆新設住宅着工戸数

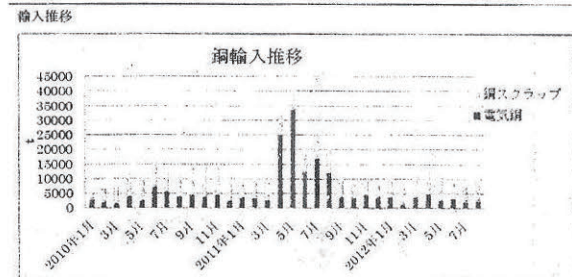
国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)二・一%増(昨年比五・五%減)の七万七、五〇〇戸であった。

輸入は電気銅が前月比一六・五%増の二、四五三t、スクラップが一五・七%増の六、七六八t。

	6月	7月	8月
新設住宅着工数	7万2566戸	7万5421戸	7万7600戸
季節調整 前月比	-7.3%	+3.9%	+2.1%
昨年対比	-0.2%	-9.6%	-5.5%



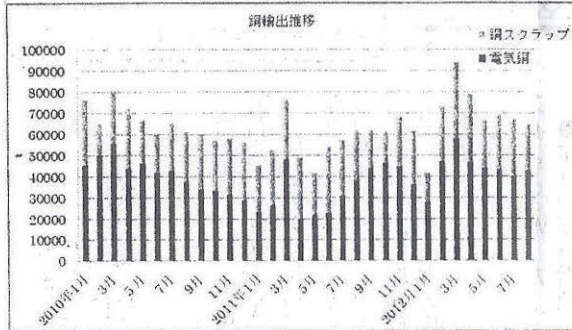
	6月	7月	8月
電気銅	3258 t	2106 t	2453 t
前月比	+19.7%	-35.4%	+16.5%
スクラップ	5562 t	5850 t	6768 t
前月比	-29.2%	+5.2%	+15.7%



◆貿易関連指標

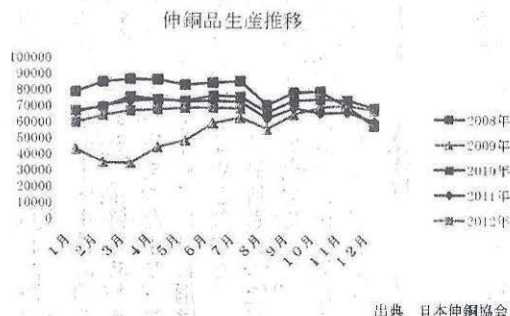
財務省貿易統計によると輸出は前月比で電気銅が六・九%増の四万二、七二四t、スクラップが一八%減の二万二、三二二t。

	6月	7月	8月
輸出			
電気銅	4万3366 t	3万9980 t	4万2724 t
前月比	-1.1%	-7.8%	+6.9%
スクラップ	2万5905 t	2万7231 t	2万2322 t
前月比	+12.6%	+5.1%	-18%



【前月の国内指標】

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比一五・一%減の五万八、一九〇t(昨年対比六・五%減)。



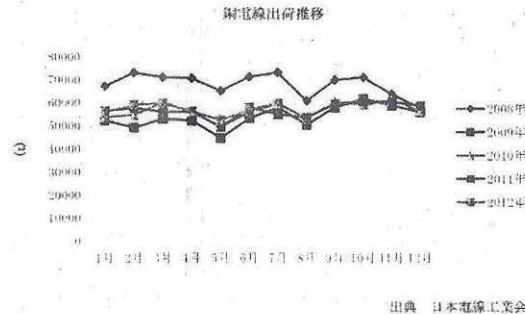
出典 日本伸銅協会

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は前月比六・四%減の五万五、七〇〇tであった(昨年対比三・三%増)。(六面に続く)

銅需給緩くメーカー買い気薄か

(二面より続く)

銅相場 LME 八千二百ドル程度で推移へ



あり注意が必要。

住宅着工数も五・五％減（前年比）と大幅減少。その他の関連業界は引き続き悪化しており、伸銅品生産に関しては一五カ月連続悪化の六・五％減（前年比）。

欧州懸念の後退や金融緩和、中国のインフラ整備など好材料はあるが、それも効果が出るのは年明け以降との見方もあり需給はゆるゆるの状態。メーカーも買い気なし。

銅価格に関しては、予想に反してFRBによる追加的金融緩和（QE3）が行われたことや同時に中国の一兆円規模のインフラ計画などで先月は急騰したが、急騰からの調整性や材料は尽くし感、さらに具体策の実行への障害などが予測でき上値は八、二〇〇ドル。下値もQE3での効果やインフラ整備での実需から、当面の抵抗線のLME価格で八、〇〇〇ドル。銅建値に関しては六七、六九万円程度と予測している。

九月の新車販売三・四％減

補助金終了で一二月ぶり減

日本自動車販売協会連合会（自販連）と全国軽自動車協会連合会が一日発表した九月の新車販売台数は、前年同月比三・四％減の四万六、六八六台と一二月ぶりに前年実績を下回った。エコカー補助金が同月二十一日に終了したことが響いた。内訳は軽自動車以外が八・一％減の二八万八、四七八台、軽自動車が六・六％増の一五万八、二〇八台だった。

九月の軽以外の販売台数は、二十一日時点では前年を辛うじて超えていたが、補助金終了後の落ち込みで月間ではマイナスに沈んだ。十月以降の新車販売について自販連は「補助金終了による反動減はある程度出るとみられ、予断を許さない」とみている。

メーカー別では、主力の軽乗用車「ワゴンR」を全面改良したスズキが八・五％増と好調だったが、トヨタ自動車など大手他社は軒並みマイナスだった。

二〇一二年度上期（四、九月）の新車販売総数は、東日本大震災の打撃で昨年同期の販売が落ち込んだ反動から、前年同期比三三・五％増の二五九万〇、五〇五台と大きく伸びた。内訳は軽自動車以外が二九・二％増の一六一万一、八八八台、軽が四一・四％増の九七万八、六一七台。

【見通し】

今月は自動車生産に関してもついに一時の好調さは消え、自動車販売や住宅関連はついに悪化が感じられた。

欧州懸念は独憲法裁判所で欧州救済基金の設立が認められたことや、スペインが緊縮財政に応じるなどしたことからかなり後退した。

自動車生産は前年比四・五％増の七三万五、九九九台と一三カ月連続上昇、ただかなりの伸び悩みが見受けられ今後を危惧。

また国内自動車販売台数が二八万八、四七八台で前年比八・一％減と悪化。

自動車関連が少ない伸銅品生産量は前月比一五・一％減の五万八、一九〇tで昨年対比六・五％減と一五カ月連続前年割れ。

銅電線出荷量は、前月比六・四％減の五万五、七〇〇t、昨年対比三・三％増と七カ月連続回復へ。自動車販売の悪化を受けて今後を危惧。

新設住宅着工数は季節調整前月比二・一％増の七万七、五〇〇戸、前年比は五・五％減と大幅減少。

輸出に関しては、電気銅輸出が前月比六・九％増の四万二、七二四tと五カ月ぶりの増加。銅スクラップは一八％減の二万二、三三二tとこちらは減少した。

輸入は電気銅が一六・五％増の二、四五三t、スクラップは一五・七％増の六、七六八t。

銅需給に関しては、先月から自動車関連の需要が伸び悩み、また自動車販売台数で八・一％減とついに減少、生産台数では四・五％増と増加しているものの、急減する可能性が